

第18回日本免震構造協会賞 - 2017 -

第18回日本免震構造協会賞は、右の7件に決定した。

表彰制度の目的

免震構造の技術の進歩及び適正な普及発展に貢献した者並びに建築物を表彰することにより、免震技術の確実な発展と安全で良質な建築物等の整備に貢献していくことが本協会の表彰制度の目的である。

表彰の対象

功労賞は、多年にわたり免震構造等の適正な普及発展に功績が顕著な個人に、技術賞は、免震建築物等の設計・施工及びこれらに係る装置等に関する技術としての優れた成果を上げた個人、法人及び団体に、作品賞は、免震構造等の特質を反映した、格別に優れた建築物等の実現に主たる貢献を行った個人、法人及び団体に、業績賞は、免震構造等の特質を反映した、建築物等の優れた設計、改修、保全、維持、復元、困難なプロジェクトの実現等において際立った業績をあげた個人、法人及び団体に、普及賞は、免震建築物・免震啓発活動・免震に係わる装置等により免震構造等の普及に貢献した個人、法人及び団体に贈る。

表 彰

2017年6月8日

一般社団法人日本免震構造協会通常総会後

一般社団法人日本免震構造協会表彰委員会委員

森高英夫（委員長） 安達 洋 井田卓造
江副敏史 下吹越武人 竹内 徹 畠中克弘
東野雅彦

審査経過

本年度の応募は技術賞3件および作品賞12件であったが、第1回表彰委員会で議論した結果、技術賞のうちの1件を普及賞および作品賞のうちの1件を今回から新しく設けた「業績賞」の応募に相応しいと判断し、各応募者にエントリー変更の打診を行い了承された。その結果、技術賞2件、作品賞11件、業績賞1件および普及賞1件の応募について審査を行った。

技術賞応募の2件については書類審査とヒアリングを行い、委員会で議論した結果、2件とも技術賞として選出した。1件は、高性能摩擦ダンパーの開発で確実な性能確保と実績の多さが評価された。他の1件は免震構造用U字形鋼材ダンパーの損傷評価法の構築で今後の実務への展開が期待されるものとして評価された。

作品賞の応募は、オフィスビル7件、物販ビル2件、共同住宅およびスポーツ施設1件ずつであり、この中で中間階免震構造を採用した作品が5件あった。何れも特徴的な構造計画に加えて意匠デザイン・環境配慮等に優れた作品であっ

選 考 結 果

第18回日本免震構造協会賞受賞は下記の7件である。

I 技術賞

- 1) 皿ばねとブレーキ技術を用いた高性能摩擦ダンパー「ブレーキダンパー」の開発
株式会社大林組 佐野剛志 鈴木康正
野村 潤 内海良和
後閑章吉
- 2) 水平2方向外力を受ける免震構造用U字形鋼材ダンパーの損傷評価法
東京工業大学 山田 哲 吉敷祥一
ENE Diana
東京理科大学 焦 瑜
新日鉄住金エンジニアリング株式会社 小西克尚

II 作品賞

- 1) 鉄鋼ビルディング
株式会社鉄鋼ビルディング 増岡祥文
株式会社三菱地所設計 溜 正俊 吉原 正
宮下正人
大成建設株式会社 坂本雅之
- 2) 笹川平和財団ビル
公益財団法人笹川平和財団 羽生次郎
株式会社松田平田設計 菊地岳史 藤田啓史
牧野健二
大成建設株式会社 伊藤清仁
- 3) G.Itoya（銀座・伊東屋）ロバスト性を有する1スパン高層制振建物
株式会社伊東屋 伊藤 明
大成建設株式会社 川口 恵 柴田宣伸
藤永直樹 高島 洋
- 4) 市立吹田サッカースタジアム
スタジアム建設募金団体 本間智美
株式会社竹中工務店 奥出久人 大野正人
野澤裕和 大平滋彦

III 普及賞

- 1) 竣工後30年を経過した免震建物に設置された積層ゴムの経年変化
株式会社奥村組
昭和電線ケーブルシステム株式会社

(敬称略)

た。書類審査および現地審査に基づき、第2回表彰委員会で厳正に審査した結果、関係者を除く委員の評価得票率で60%超を獲得した応募作品3件を選出した。特に、鉄骨通し柱+ブレースダンパーを配した1スパン高層制振建物は高評価となった。その後、再審査を行い評価得票率75%の1件を追加選出した。業績賞応募は、既存基礎躯体を免震層に改造した工夫は評価されたが、既存基礎・杭の安全性について踏み込んだ説明がなかったことが物足りなかった。普及賞応募は、積層ゴムの30年経年変化の貴重なデータを公開したものとして評価された。(森高英夫)